

出張所の窓辺から
vol.59

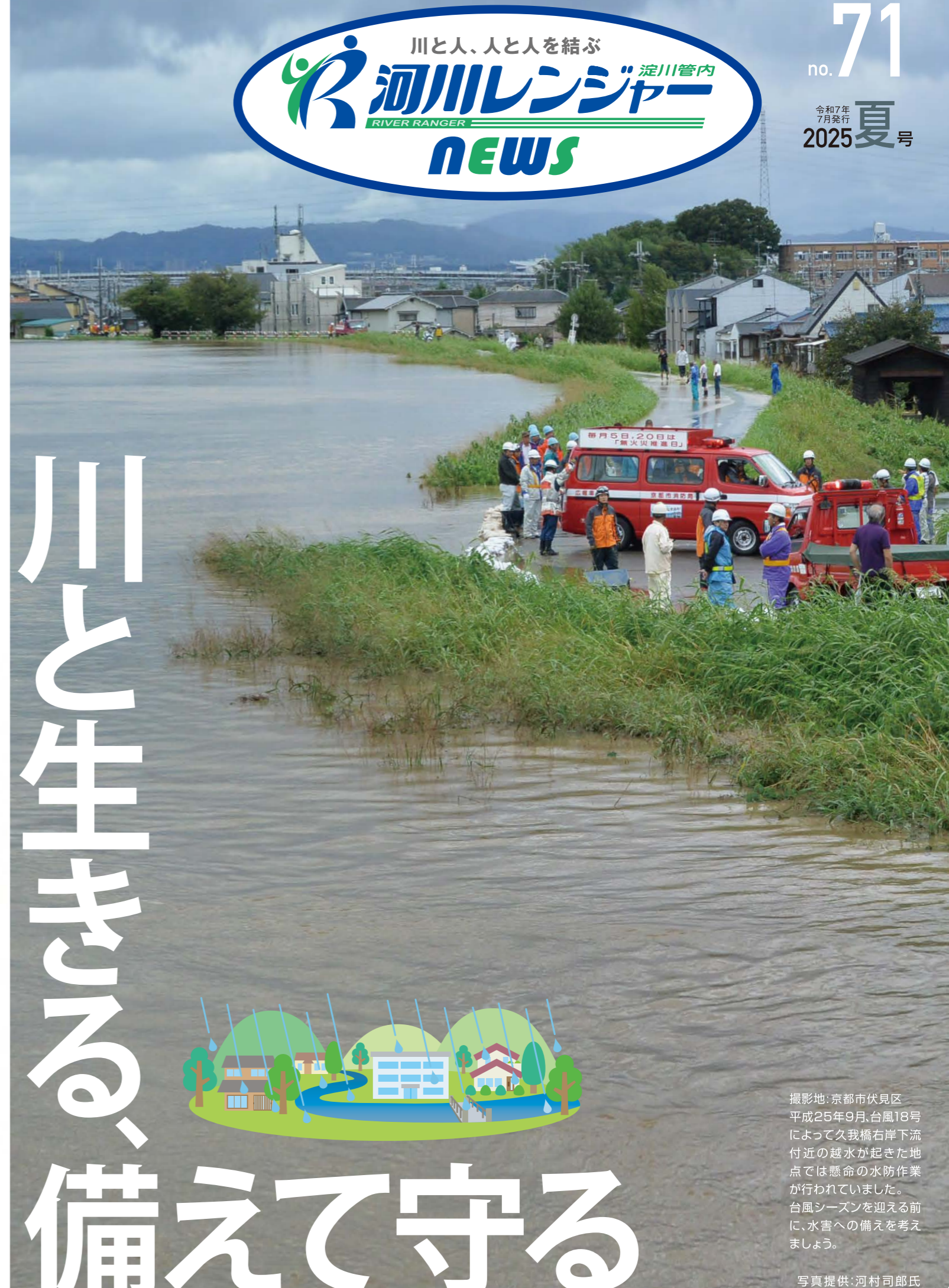


こんにちは、今回は高槻出張所からお届けします。
高槻出張所管内は比較的河川敷が広く多様な用途に利用されています。島本町域では淀川河川公園島本地区があり、沿川住民の憩いの



場となっていますが、近年では公園周辺の樹木が生い茂っていました。洪水時の川の流れに支障をきたす恐れがあったことから、令和6年度に大規模な樹木伐採を行いました。伐採後は公園から河川も見渡せるようになり、適切な環境を取り戻すことが出来ました。このように河川では定期的に樹木伐採を行っています。
一方、大塚町辺りや柱本周辺の河川敷は過去から有料のゴルフ場として利用されていますが、近くの唐崎周辺では茂った木々の陰

でゴルフの練習をする方が見受けられました。中には勝手にグリーンを作ってしまうケースもあり、何度も注意や看板での呼びかけを行っても変化がなかったため、令和6年度の工事にあわせて容易にゴルフができない環境に改善を行いました。また、立て看板を設置してゴルフ禁止の呼びかけを継続しています。
河川敷でゴルフクラブを持ち歩いている人を見かけることもありますが、誰もが河川敷で快適に過ごせるように、素振りなどの行為も禁止です。ルールを守ってみんなで楽しく利用しましょう。



川と生き物、備えて守る



シオクグ (塩莎草)
Carex scabrifolia Steud

私たちの身近にある河川敷は、多様な生き物が集まる貴重な自然環境です。私が暮らす淀川の下流域も例外ではなく、四季折々の植物や野鳥、水生昆虫などが観察できる自然の宝庫です。
そんな下流域の河川敷で見られる「塩生植物」をご存知でしょうか？これは、海水が混じる干潟や河口など、塩分を含む環境でも生育できる植物のことです。そんな塩生植物の一種「シオクグ」は、30～60cmくらいの高さになるカヤツリグサ科の多年草で、ヨシの群落の中にひっそりと混じって生えて

いすものイオン
第42回
福島出張所管内
河川レンジャー
児玉 曜子

います。春から初夏にかけて花を咲かせ、夏には小さな穂が実ります。あまり目立たない存在ですが、小魚や水生昆虫のすみかを支える役割を果たしており、湿地保全の重要な植物として見直されています。しかし、現在では大阪府の準絶滅危惧種に指定されるほど数を減らしています。
もし下流域の河川敷を散歩する機会があれば、ヨシの根元にも目を向けてみてください。そこには、自然のバランスを静かに支える小さな命が息づいています。



国土交通省
川の防災情報
国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひご利用ください。
<https://www.river.go.jp>

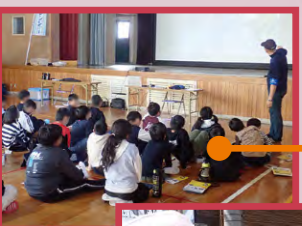
河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。詳しくはホームページをご覧ください。
発行責任者：淀川管内河川レンジャー事務局
〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32 TEL:072-861-6801(平日9時～17時)
淀川管内河川レンジャー <https://www.river-ranger.jp>

撮影地：京都市伏見区
平成25年9月、台風18号によって久我橋右岸下流付近の越水が起きた地点では懸命の水防作業が行われていました。台風シーズンを迎える前に、水害への備えを考えましょう。
写真提供：河村司郎氏



水害を知る (マイ防災マップ作り)

地域のリスクを学ぶ



自分たちで調べる



地域のマップにまとめる



水害を考える (マイ・タイムライン作り)

自分に必要な備えを考える



いつ行動するかを考える



家族とともに考える



水害を体験する (浸水地歩行体験)

浸水地のリスクを疑似体験する

※体験では長靴を着用していますが、浸水時の避難は脱げにくい運動靴の着用をおすすめしています。



早めの避難を考える



水害のリスクを知って自分の行動に繋げる事が「自分事にする」ということだね！



河川レンジャーが取り組む 流域治水

「知る・考える・体験する」で命を守る行動を
河川レンジャーは、地域の方々
水害を自分事として考えられるよう、
学校や自治会などと連携して
様々な活動に取り組んでいます。

木津川の歴史を伝える「残念石」



木津川加茂エリアにある「残念石」をご存じですか？これは、江戸時代、大坂城の修築のために切り出された石材の一つです。木津川流域には、質の良い花崗岩が豊富にあり、周辺では多くの石が採掘されました。切り出された石は、木津川を通じて大阪へ運ばれる予定でしたが、何らかの理由で運ばれず、そのまま残されたものが「残念石」と呼ばれています。



木津川市加茂町の残念石

石には当時の刻印も見られ、歴史を感じさせる貴重な文化財です。かつての石材輸送に木津川が大きな役割を果たしていたことも、こうした石から知ることができます。そして今、この「残念石」は意外な形で脚光を浴びています。2025年の大阪・関西万博では、自然素材のトイレ「ジオ・トイレ」の建材として活用され、来場者に日本の石文化や環境への配慮を伝えています。万博終了後には再び木津川市の加茂町に戻



大阪・関西万博で使用されている木津川の残念石

てくる予定ですので、木津川とともに歩んできた石の物語に、ぜひ目を向けてみてください。



木津川出張所管内河川レンジャー 川崎あき



出前授業・出前講座の申し込みは、レンジャーホームページの「依頼したい」から



自然の宝庫・淀川の魅力に魅せられて始めた干潟学習会は、“淀川を知って！見て！学んで遊ぶ”をコンセプトに、自然環境の保全と自然災害への理解を深める活動です。十三干潟は、近畿の水がめ琵琶湖から悠々と流れる淀川が育む都会のオアシスであり、カニやヤマトシジミ、ヨシと共存する野鳥など、多様な命が息づく貴重な場所です。50数年前、近所の子供と一緒に淀川に出掛け、春には土手でコロコロでんぐり返しをしたり、ツクシやタンポポをたくさんつんで花輪を作ったりワクワクしながら帰路を急いだりしたことが思い出されます。その当時、淀川は環境は決して良いも

のではなく悪臭が漂い、干潟に入りたいと思えるには程遠い場所でありましたが、河川環境の整備が進められて「行きたい川」から「行きたい川」に変化しました。平成18年からは河川レンジャーとして「リバーウォッチャー淀川探検」や「防災スクール」などの活動を実施、更には、区役所と連携した「干潟の自然学習会」活動など、“淀川が好きやねんと思う子どもを育てたい”の一途な思いで進めてきました。“好きやねん淀川”を合言葉にして、子どもたちの心に響く活動を今後も進めていきたいと思っています。

干潟の自然学習会



都会に残るオアシス、十三干潟



干潟の自然に触れる子どもたち

[Column]

グリーンインフラ × 河川レンジャー



河川レンジャーアドバイザー 辻川松子